

平成 20 年 2 月 28 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 フ ォ ト ニ ク ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柄 澤 憲 彦
(コード 7 7 0 8 大 証 ヘ ラ ク レ ス)
問 合 せ 先 取 締 役 吉 安 篤 志
業 務 管 理 部 長
T E L 0 3 - 3 3 6 3 - 7 7 0 8

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 8 月 29 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 20 年 6 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 19 年 7 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

（金額の単位：百万円）

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1 株 当 た り 当 期 純 利 益 |
|--------------------------------|-------|---------|---------|-----------|---------------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 1,389 | 61 | 48 | 52 | 円 銭 985 30 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 936 | 54 | 65 | 248 | 4,714 06 |
| 変 動 額 (B - A) | 453 | 115 | 113 | 300 | |
| 変 動 率 (%) | 32.6 | | | | |
| 前 期 (平 成 19 年 6 月 中 間 期) 実 績 | 1,380 | 98 | 37 | 187 | 3,545 83 |

2. 20 年 6 月期中間業績予想数値の修正（平成 19 年 7 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

（金額の単位：百万円）

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1 株 当 た り 当 期 純 利 益 |
|--------------------------------|-------|---------|---------|-----------|---------------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 370 | 96 | 97 | 58 | 円 銭 1,103 63 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 176 | 147 | 141 | 238 | 4,526 88 |
| 変 動 額 (B - A) | 194 | 243 | 238 | 296 | |
| 変 動 率 (%) | 52.4 | | | | |
| 前 期 (平 成 19 年 6 月 中 間 期) 実 績 | 341 | 72 | 63 | 27 | 528 10 |

3. 20年6月期通期連結業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成20年6月30日）
（金額の単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|----------------|-------|------|------|-------|----------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回発表予想（A） | 3,080 | 104 | 91 | 53 | 1,004 24 |
| 今回修正予想（B） | 2,016 | 128 | 172 | 494 | 9,459 98 |
| 変動額（B - A） | 1,064 | 232 | 263 | 547 | |
| 変動率（%） | 34.5 | | | | |
| 前期（平成19年6月期）実績 | 3,048 | 195 | 36 | 188 | 3,573 06 |

4. 20年6月期通期業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成20年6月30日）
（金額の単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|----------------|------|------|------|-------|----------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回発表予想（A） | 512 | 93 | 95 | 56 | 1,069 43 |
| 今回修正予想（B） | 376 | 316 | 303 | 481 | 9,211 03 |
| 変動額（B - A） | 136 | 409 | 398 | 537 | |
| 変動率（%） | 26.6 | | | | |
| 前期（平成19年6月期）実績 | 811 | 15 | 17 | 280 | 5,316 14 |

5. 修正の理由

売上高につきましては、電子材料その他の事業においては半導体関連の消耗品販売が安定的に推移いたしました。電子機器事業についてはCPU向け電子部品の販売が低調に推移したことに加え、海外向け液晶製造装置が、液晶材料の供給不足によって設備投資額が減少しており、受注額が当初予想より下回っております。また投資育成事業についても保有する投資育成有価証券の売却が市況の変化により計画を下回ったことや進捗の遅れなどにより、当初予想を下回る見込みとなりました。利益面では、上記売上高による影響のほか一部投資先企業（高機能繊維事業）における売掛債権などの回収遅延による多額の貸倒引当金の計上（88百万円）や減損会計に伴うたな卸資産の多額な評価減（48百万円）を実施したこと、そのため単体としても同事業への投資損失として135百万円の計上及びその他投資先企業の業績悪化による投資損失等の引当金（78百万円）などを計上いたしました。上記のうち特別損失は、連結においては合計167百万円、単体においては合計96百万円と多額に計上いたしました。これにより、前回発表の営業利益、経常利益、当期利益予想を連結、単体ともに大幅に下回る見込みとなりました。高機能繊維事業につきましては、前期末より不採算部門の大幅な改革を断行しておりますが予想以上に長引いてしまったことが今回の修正の主要因であります。また、中間期の状況や市場動向を考慮し当期中の回復は困難と判断し、通期業績予想につきましても前回発表数値の修正を行なうことといたしました。

ただし、当然ではありませんが当該たな卸資産の売却や債権の回収を精力的に行ってまいります。

また、この度の損失の計上によって当社グループに内包する損失リスクは一掃できたため、財務基盤はより強固なものになり、さらに平成 19 年 12 月 21 日付及び本年 2 月 18 日付で発表いたしましたとおり、持分法適用関連会社である㈱インネクスト並びに㈱ナノテックスの当社保有株式を譲渡したことで資金はさらに潤沢となっております。そのため今後のベンチャー投資育成につきましては、その資金を有効に活用し当社の長い歳月で築き上げた要素技術をベンチャー企業の活性化に繋げ、その成果を市場ニーズに活かせるよう、開発とマーケティングに最も重点をおいた事業展開を行なってまいります。現状、当社におきましては、独自のネットワーク、ノウハウの融合によって数年来の開発案件が実り始めており、具現化に向け経営資源を投入し将来の収益基盤として育ててまいります。その一環として、当中間期におきましては、半導体・液晶製造装置や特殊装置を安価に開発・製造を行なう事業会社と当社のシナジーによって、海外における新規の製造ラインの受注を獲得しております。これは前記した液晶材料の供給不足の解消によっては、今後ますます需要が伸びると予想しております。また、高収益を図れる ASP サービス事業といった新たな領域への進出も検討しております。持分法適用会社についても当社とのコラボレーションによって事業基盤が確立しつつあり、収益体制が整い次第徐々に出資比率をあげていく方針です。加えて、自己株式の有効活用により、キャッシュを使わず有望企業との協業を図ってまいります。これまで 2 社の投資先の上場を実現させたようなハンズオン型投資を最重要視し、経営資源のアロケーションを明確にさせてまいります。

今後は精力的にオプトエレクトロニクス分野の研究開発及び営業活動を行いグループ一丸となって売上・収益の改善に努めてまいるとともに、適時の IR を実施し、投資家の皆様へより透明性のある情報開示を行ってまいります。

(注) 上記予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は業況の変化等の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上